

“月日を歩き、学んで歩く” 明德の「今」を伝える月刊誌「げっぼがっぼ」

## 現場から 学ぶ

保育者となるための知識を、学生たちは日々の授業で学んでいます。しかし、ただ教室にいるだけでは学べないものもたくさんあります。だからこそ本学では、「現場」へと出て行くことを大切にしています。その現場とは、必ずしも保育現場とは限りません。今月号では、雨にも負けず、「現場」へと飛び出していく学生の姿を紹介します。



## 特集 学びの入口プログラム

(P.2-7)



1年生の6月 (P.8-9)

青空のもとにもある学び

「障がい者スポーツ大会  
参加について」



2年生の6月 (P.10)

学校から現場へ

「ただいま教育実習中！」

学生ページ (P.11-13)

総合保育創造組織紹介

「明德土気保育園」 (P.14)

卒業生の今

龍孝幸さん (P.15)

教員からのおすすめ (P.16)

!hot news! 今月の明德速報

(P.17-19)

# 特集 学びの入口プログラム

今年度初めて実施した「学びの入口プログラム」は、その名称通り、1年生の4・5月を学びの入口期間とし、保育体験・実習をする園ごとに分かれた5つのグループに11人の専任教員が関わりながら取り組みました。



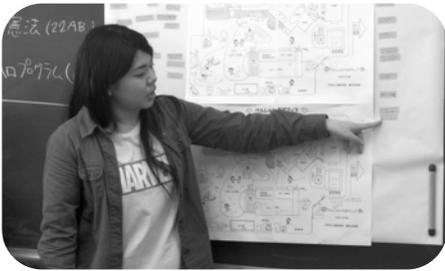
## 「学びの入口プログラム」を振り返って 柴田大輔 ・ 明石現

明德での2年間の学びの入口となる入学直後の2か月間にわたって、「学びの基礎を身につける」ことを目標に掲げた「学びの入口プログラム」。授業の枠を越えて多くの教員が参加し、学生と一緒に様々なことに取り組んできました。今年度実施したこのプログラムは学生だけではなく、私たち教員にとっても新たなチャレンジであり、試行錯誤を繰り返しながら学生とともに学び合う2か月間となりました。

プログラムを終えた直後の今の時点で、その成果を結論付けることは早計かも知れません。しかし、このプログラムが「学びの入口」に位置付けられるものであるが故に、その成果を振り返ることは、これからの2年間にわたる「学び」の方向性を確認する上で重要なこととなります。ここに参加した1年生全員の学びの糧となることを願い、振り返りを行います。

「体験から学ぶ」ことを教育課程の根底に置く本学では、入学直後の4月から保育現場に赴きます。

保育現場に足を踏み入れ、自らの目を見て、感じ、考える数々の体験、そこから学生は多くの学びを得て行きます。その一方、「子どもが好き」という動機から保育の道を目指し本学に入学した多くの学生にとって、初めての体験の連続（初めての保育環境、保育者との関わり、また、楽しいだけではない子どもへの責任感など）が緊張感・ストレス・戸



惑いとなる事は想像に難しくなく、事実、保育現場になかなか馴染めないという学生も例年多く見られます。保育現場への一歩目が高い壁となっている現状を鑑みると、入学当初時において、学生自身が壁を乗り越える準備を整えることが必要であり、本学が早急に取り組むべき課題となります。

また、周りの目（仲間たちや教員など）を気にするが故に、自分に自信が持てず、自身の意見を素直に語るができない学生が毎年多く見られます。彼ら彼女らは自分の殻に閉じ籠り、自分を表現すること、他者を受け入れること、そして他者とコミュニケーションを図ることに苦慮する傾向にあります。

「これらの状況を何とか打破する必要がある」。本プログラムはここを出発点として今年度より開始した新たな取り組みとなります。ここでは、5つのグループに分かれ、それぞれのグループが保育体験だけではない、さまざまな体験活動（子どもと関わり合うことが楽しいと思える体験、或いは学生の自主性を重視した自由度の高い活動）に取り組んできました。

先に述べたように、現時点でこの取り組みの成果を結論付けることは困難です。しかし、本プログラムに関わった教員からは、実習では見られない、子どもとの関わり合いを素直に楽しむ学生の姿が多く見られたとの意見が挙げられました。また、学生からも「子どものことをもっと知りたい」という声も聞かれました。実習とは異なる場面で、子どもの姿を知る・触れることのできる貴重な機会を得たことで、別の切り口から保育への関心・興味を高めた学生もいたようです。

また、多くの教員が関わることで例年よりも少人数単位での活動が可能となり、学生同士あるいは教員との個別の関係性が強まる傾向も見られました。その結果、「他の学生や教員との繋がりを実感できた」、「学校に自分の居場所を見つけることができた」などの意見も挙がった様子から、短大生活にスムーズに移行できた効果も見て取れるのではないのでしょうか。

本プログラムで掲げた当初目標の一つである「学生自身が『自分の思いを語る、他の意見を受け入れる』こと」については完璧とは言えないまでも、一定の成果が上がったとの意見も挙げられました。この成果が他者とのコミュニケーションに苦慮する学生の改善のきっかけとなるよう、今後も引き続き、見守って行きたいと思えます。

以上が本プログラムの全体総括となります。次に各グループの担当教員から、実践内容及び振り返りを中心に活動を紹介します。



## 各グループの報告



### 【石井・柴田グループ】

本グループでは、幼稚園体験に加え、学生の自主的な活動をテーマとした様々な体験活動を行った。活動をする時には、学生一人ひとりがプレゼンテーションを行い、合議（全員の合意）で決めた。

幼稚園体験と同様、これら保育以外の体験においても実施後の振り返りが重要となる。例えば動物園体験は「動物が好きな子どもが多いことを踏まえ、子どもをどのように楽しませるかを考えよう」という所から計画・実施した活動である。その成果は学内の「育ちあいのひろばたいむ」に掲示して実際に子どもの反応を見ることに置き、体験をもとに話し合いを重ねて造形物の制作を行った。

今回のプログラムの成果として「活動を共にすることで、お互いの顔と雰囲気を知ることができたこと」が第一に挙げられる。その他、「他者と話し合い合意する難しさ」や「安易に選択しない大切さがあると知ったこと」などが挙げられるが、その達成度については学生ごとに温度差が出たようだ。これらの活動から学生一人ひとりが何を学び、何を考えたのか。その成果は今後の活動で引き続き追うこととしたい。



### 【片川・明石・高森グループ】

この4、5月の明石・片川・高森グループを振り返ると「相手の話を聞こうとする」「話したことが許容される雰囲気」が浮かびます。初めての顔合わせで自己紹介をし合った時から、一人ひとり相手の顔を見て頷きながら丁寧に聞こうとする姿が印象的でした。

2ヶ月間で、体験2日とまとめ発表の計3回、自分たちでの企画、実行を行いました。教員からの指示がほとんど無いまま、25名という大人数でいきなり多くのことを決めるというのは大変なことです。行き詰まったら教員がフォローしよう、とドキドキしながら見ていたのですが、リードする人、きちんと意見を伝える人、発言出来ずにいる人に近寄って意見を聞く人等がおり、ねらいから具体的な方法までを本当に見事に話し合って決めていきました。その中でも「相手の話を聞こうとする、話しやすい雰囲気」が感じられました。

もちろん、誰もが何でも話せるわけではありません。また話すべきだとも思いません。その場にいる人たちがどんな思いでいるのか、自分の態度が周囲にどんな影響を与えるのか、そのようなことに気づき合いながら、お互いを認め合っていけたらと考えています。





### 【金・田中グループ】

私たちのグループは、学生24人と教員2人、計26人でこのプログラムを体験しました。初回は、一年間一緒に学び合っていく“仲間”と、中庭で春らしい陽気を感じながら自己紹介をして遊び、笑いあってスタートしました。保育体験の振り返りでは、“園マップ”作成や、お互いの体験の話し合いを丁寧に行いました。学外体験は2回。初回は「学外体験日だからこそできることを企画しよう!」「みんなで楽しめることを考えよう!」と、実習園の子どもたちもよく行く行田公園で思いきり汗をかいて楽しみ、2回目は、行いたい体験内容をプレゼンし合い、一人ひとり自分の気持ちに正直に考えた結果、4つの企画をそれぞれ実行しました。

このグループで大切にすることは、“みんなで楽しく様々な体験をする”、“楽しさの追求だけではなく、体験後は話し合い、体験の意味を考える”ということでした。さらに、主体性を大切にする園（年長児は子どもたちが自ら遠足の行き先を選択し決定する園）で実習をさせていただくからこそ、みんなも主体的に考え、責任を持って取り組む経験をしてもらいたいと考えていました。これからも、このメンバーでの授業は続いていきます。これからも真剣に、楽しく、一緒に過ごせることを、楽しみにしています!



### 【小久保・伊藤グループ】

私たちのグループは、保育体験を中心に展開した。

「誰よりも多く現場に出る!」をスローガンに、学生たちは毎週金曜日に保育の現場に出て、とにかく徹底的に子どもたちとかわった。

具体的な保育現場は、毎年多大な協力を得ている小中台幼稚園、小ばと幼稚園、そして総合保育創造組織内施設である明德そでの保育園、明德土気保育園である。

他のグループがボーリングをしたり動物園に行ったり「楽しい体験」を実施するのを横目に見ながら、入学したての彼らが、現場に出て子どもと全力で遊ぶことは、体力的にも精神的にもキツイ面があったかもしれない。

しかし、これらの保育体験での一番の収穫は、学生たちの多くが「子どもとかわることは楽しい」という気持ちを再確認できたことである。これは保育体験の機会を設けてくれた、各現場の協力のおかげに他ならない。

この体験が、今後の実習や就業につながっていくことを期待している。



### 【由田・鶴田グループ】

このグループは、学生22名。幼稚園での保育体験のほか、様々な活動を行いました。

最初の頃の語り合いは、皆、堅く、言いたいことも言えないような状態でしたが、徐々に解れていきました。話し合う・思いを語るという意味では、最後の活動を何にするか、そして、発表会があるなら何を発表するかを自分たちで決めていく過程が、とても大切な時間となりました。活動を決める際には、グループ内の男子学生が前に出てきて進行を行い、困ると意識的に席を外していた教員の所に助けを求めにきたりしつつも、様々な意見をまとめて形にしていきました。（結局その企画は雨で流れ、学内でレクリエーションを行いました。それが却ってよかったようで、教員も本気になって参加したこともあり、全員の関係がとても打ち解けたものとなりました。）発表会での内容を考える時間では、それまでとは打って変わって数名の女子が話を進め、22人全員が本気になって考えている様子が見てとれました。活動後の語り合いまでを通して、相手の話を聞く、自分の思いを語ることの楽しさを感じるようになったのではないかと思います。



グループ	体験内容
石井・柴田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習園見学及び保育体験2回：あやめ台幼稚園、あやめ台第二幼稚園、ちぐさ幼稚園</li> <li>・学外体験① バーベキュー</li> <li>・学外体験② 千葉市動物公園。学生が話し合い、役割を決め、準備から後片付けまで行った。</li> <li>・学外体験③ A：育ちあいのひろば「たいむ」の芋畑+中庭の整備。 B：おゆみ野の森（森の時間）にて、活動を創る保護者や子どもたちと自然の中で遊んだ。</li> </ul>
片川・明石・高森	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習園見学及び保育体験2回：千葉明德短期大学附属幼稚園</li> <li>・学外体験① グループに分かれて（千葉市動物公園／千葉都市緑化植物園／ありのみコース）</li> <li>・学外体験② 全員での昼食作りと会食（その後予定したレクリエーションは時間の都合で断念）</li> </ul>
金・田中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習園見学及び保育体験2回：健伸幼稚園・健伸行田幼稚園</li> <li>・学外体験① 行田公園にて学生案による遊び（ドッジボール、長縄、水風船等）</li> <li>・学外体験② 学生企画による体験（新宿御苑にて「森のおもちゃ美術館」、学内にてバーベキュー、千葉市動物公園、葛西臨海水族園）</li> </ul>
小久保・伊藤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習園見学及び保育体験2回：小中台幼稚園・小ばと幼稚園</li> <li>・学外体験①+② 明德土気保育園 / 明德そでの保育園</li> </ul>
由田・鶴田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習園見学及び保育体験2回：佐倉城南幼稚園・四街道さつき幼稚園</li> <li>・学外体験① 四街道プレーパーク“どんぐりの森”に参加</li> <li>・学外体験② 学内でレクリエーション（自分たちで決めた活動。雨天のため千葉市動物公園行きは中止）</li> </ul>

「学びの入口プログラム」が終わっても、明徳の学びは始まったばかり。次に1年生を待っているのは「基礎ゼミ」です。

「基礎ゼミ」とは、教員が設定したコースの中から自分の興味・関心のあるものを選び、より深く学んでいくという授業です。今年も以下のように個性豊かなコースが揃いました。

今後1年生はどのような学びを積み重ねていくのか...楽しみです。



教員名	テーマ
明石ゼミ	福祉の音プロジェクト ～手話合唱で社会とつながる～
石井ゼミ	お母さんたちとプレーパークを創る
伊藤ゼミ	子どもを通して見る世界 ～写真～
箆ゼミ	農家体験
片川ゼミ	自分の考える“子ども”と“大人”
金ゼミ	映画の中の“子ども”から考える
小久保ゼミ	①保育における経典を写経する・②学内路上ライブを実践する
柴田ゼミ	学校の環境整備に取り組もう
高森ゼミ	お話の世界を楽しもう
田中ゼミ	自分の体と心を駆使して表現しよう
鶴田ゼミ	自分の関心を知る、深める
山野ゼミ	福祉を学ぶ
由田ゼミ	古今東西、名作と言われる映画、音楽を見てみよう、聴いてみよう



6月25日（水）、小久保ゼミ「学内路上ライブを実践する」によるゲリラライブが玄関の暖炉前で行われていました。今後もたびたびこのようなライブは行われるようです。他のゼミもどんな活動をしているのか、来月23日の発表会で共有しましょう。

# 1年生の6月

## 青空のもとにもある学び

### 障がい者スポーツ大会参加について

山野 良一



例年、1年生全員、2年生は希望者で千葉県障がい者スポーツ大会のボランティアとして参加しています。今年も、5月25日の日曜日に参加してきました。2年生も40人近くが自主的に参加してくれました。

ボランティアと言っても、競技選手の招集・誘導から、表彰、記録なども行い、障がい者の方と直に触れ合い、競技の進行を手伝い、目の前で競技を見守るものです。また、この大会は全国大会の予選会も兼ねているもので、選手たちは真剣に競技に取り組んでいます。中にはパラリンピックに出場した方もいます。レクリエーション的なものとは一線をかくす部分もあります。

1年生は、授業の一環としての参加なので全員参加です。なので、参加前はやや後ろ気味の学生もいます。ところが、参加後の感想では多くの学生が全く違う気持ちになったと書くのです。例えば、

リレー種目を眺めていました。その時の私は目に涙を浮かべました。周りの応援に感動したのです。健常者の方も、車いすに乗っていた方も、聴覚障がい者の方も視覚障がい者の方も、みんな一生懸命に「がんばれ!」「前見て行け!」「その調子だ!」と選手を応援しているのです。驚きました。選手の方も恥かしさからか笑ってしまうくらいの応援でした。ホームな感じに泣きそうになったんですかね…。

あたたかさがありました。そして、何よりも走っている選手の方が一生懸命というのと、楽しそうだったところに感動しました。確かにズバ抜けては早くない方もいらっしゃいました。差もとても大きく開いていました。でも、どんな順位でもどんなに遅くゴールしても本人はとても楽しそうだったんです。ランキングにとらわれないで走ったことに私は素晴らしさを感じていたんだと思います。

また、障がい者の方に直に触れ合い、自分が変わったことに気づく学生もいます。

聴覚障がいの方が手話を通して会話をしていました。私は手話が分からないので話しかけることもできず大人しくしていました。すると、ひとりの聴覚障がいの方が私の肩を叩いて手話で何かを話してきました。けれど、私は意味を理解できずに困惑していると、その人は楽しそうに笑いながらジェスチャーで私を笑わせてくれました。言葉ではない方法でコミュニケーションが取れたこと。その人が私を笑顔にしようと取ってくれた行動に本当にうれしさを感じ、あたたかい気持ちになりました。怖いというイメージを勝手に持っていた自分を少し恥ずかしく思い、また改めて考え直すことができ、怖いというイメージが自分の中から無くなったことに対してもいい経験ができたと思えました。

こんな風に、いっぱい感動や驚きに出会い、もう一度参加してみようと思うのでしょう。2年生のうち3分の1近くの学生は、授業とは関係なく、お休みの日を使い自主的に参加してくれます。来年も、また多くの今の一年生が、もう一度あの喜びを味わうために…。



## 2年生の6月



学校から  
現場へ

ただいま教育実習中！

2年生は、6月9日から27日まで、幼稚園にて3週間実習を行っています。実習前の数週間は、準備をする学生たちにより、遅くまで教室に明りが灯っていました。今まで積み重ねて来た学びがどのように活かたのでしょうか。また、現場で何を学んだのでしょうか。

来月号に乞うご期待！



# 学生ページ



明德の「今」を学生たちが発信していくページ。それがこの「学生ページ」です。今月は、1年生がお届けします。

私たちの日常...THE青春！



食堂でお昼を食べたり...



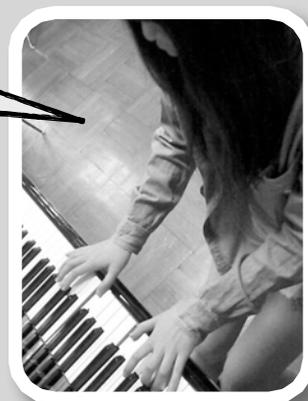
誰かのお誕生日を祝ったり...



掲示板は毎朝チェック！



ピアノの練習は来年に備えて頑張ります。



そして、走るときは走る！  
やる時はやる！



こんな私たちの日々です。  
(1年：江口愛花・宮本花梨)





## 参加しませんか？サークル活動 ～後編～



現在16サークルが活動している今年度のサークル活動。先月号に続き、サークル紹介をお届けします。様々なサークルがありますが、どのサークルも誰でも参加できるよう開かれています。少しでも興味を持ったあなた、参加しませんか？



**バスケットボールサークル**は、毎週月曜日と水曜日の19時から、千葉明德高校の体育館で活動しています。また、バレーボールサークルも同じ日に活動していて、サークル参加者のほとんどが両方に参加しています。サークル参加者のほとんどが初心者でバスケットを真剣にしている感じより馬鹿騒ぎして遊んでいる感じで活動しています。気になる方は19時前に食堂に来て下さい。（2年：高山勇太）

**ダンスサークル**は、去年やってみたくらいという理由だけで作られたサークルです。やっていることは、YouTubeに載っている踊りを真似してみるということをしています。今はボーカロイドを主に踊っています。学園祭で練習の成果を発揮して、学園祭を楽しく明るくするためにサークルをしています。その他にも、人との交流の場とも思っています！ 気になった人などは、水曜日にリズム室にいますので声を掛けてみて下さい！（2年：前澤祐菜）



私たち、**うた☆ダンサークル**は、5人と少ない人数で活動しています！ 活動日は、毎週木曜17：00～20：00です。みんな明るい性格で笑顔が絶えません。内容は、動画サイトなどを使ってダンスを見て完コピするというものです。お話も絶えないので、この時間が楽しみになっています。よろしくお祈りします！（2年：五十嵐春奈）

**冒険パークサークル**は、毎月第四土曜日に「おゆみ野カフェ」という子どもや大人たちが気軽に集うプレーパークのスタッフをしています。学生の企画で、先月はこのサークルの看板と旗作りをしました。7月には水遊び大会、10、12月には『逃走中』という鬼ごっこを行います。ぜひ、皆さんもいらして下さい。お待ちしております。（2年：尾崎莉奈）





**大工部**は、毎週水曜日の授業終わってから日没まで活動しています。場所は、学食広場前です。

これまでに作った物は、イスや看板、階段のスロープなどです。現在は、明德そでの保育園からの依頼で三輪車置き場作りを計画しています。初めての学外活動です。園児達や先生方に喜んでもらえるように作りたいです。関心のある方、一緒に作りませんか？（2年：大槻洋平）

ある方、一緒に作りませんか？（2年：大槻洋平）

**チャリサー（自転車サークル）**です。我々は、昨年発足し、自転車に乗り様々な場所を自分たちの目で見て知ることを目的として、その過程での出会いやトラブル等を楽しみながら活動しています。今まで、房総半島を巡ったり、犬吠埼に行ったりしています。（2年：松田勝也）



私たち**園芸サークル**は、『Meitoku of flowers』『花の明德』をコンセプトに、学園内を花で埋めつくすことを目標にしています。

今年は、玄関前の花壇を人が通れるように改造したり、裏庭の花壇を整備することから始めています。また、いちごや、トマトなどを育てて『食育』にも目を向けています。

植物を育てることだけではなく、自分自身の心を育てることを大切にしています。（1年：妹尾明希）

**フットサルサークル**は、大半が初心者で毎回20人弱集まり、わいわい楽しく賑やかに活動しています。基本的には木曜日の18時から20時で、本千葉のフットサルコート进行を借り、一人500円程度徴収して活動をしています。昨年はサークルを通して1・2年生の交流の場としても大きな役割を果たしていました。もっと明德を知りたい、短大生活を充実させたいと考えている方は、参加をお待ちしております！！（2年：先崎綾太郎）



**バドミントンサークル**は、今年度の始まりからあったサークルではなく、昨年にもあったサークルですが、あまり活動することがなかったため、なくなってしまいました。今年は2年生と1年生の中で、「バドミントンをやりたい！」という声を聴き、活動を再開しました。毎週、月曜日と水曜日の19時から21時まで、バスケ・バレーボールと一緒に、高校体育館で活動しているので、ぜひ興味があれば参加してほしいと思います。1・2年生の交流の場となればいいなと思っています。（2年：松本遥）

今年度は今年度の始まりからあったサークルではなく、昨年にもあったサークルですが、あまり活動することがなかったため、なくなってしまいました。今年は2年生と1年生の中で、「バドミントンをやりたい！」という声を聴き、活動を再開しました。毎週、月曜日と水曜日の19時から21時まで、バスケ・バレーボールと一緒に、高校体育館で活動しているので、ぜひ興味があれば参加してほしいと思います。1・2年生の交流の場となればいいなと思っています。（2年：松本遥）

## 総合保育創造組織紹介

### 「明德土気保育園」

明德の「総合保育創造組織」の幼稚園・保育園を紹介します。  
今回は明德土気保育園を小久保圭一郎先生が紹介します。

これまで誌上にて、私は何度か明德土気保育園について紹介しています。それは私が短大の明德土気保育園担当であるからですが、今年は特に研究のフィールドとして、そしてゼミのフィールドとして、週2日保育園に通っており、短大の担当という役割以上のお付き合いをさせてもらっていると（勝手に）思っています。

今回はそんな保育園通いの中で拾った、最近私が聴いた中でも一番の、とっておきエピソードを紹介しますね。

それは、他の保育園から転園してきた子ども（仮にAくん）と主任保育士増田先生との、こんな会話です（伝聞ですので正確ではありません）。

Aくん：僕、前いた保育園で、ある子にいつもいじめられてたんだ…。

増田先生：（憤慨しながら）そんな子、まっすー（先生の愛称）がぶっとばしてやるよ！

この言葉のあとすぐ、Aくんの表情は本当に嬉しそうに、ぱあっと明るい笑顔になったそうです。もちろん増田先生が実際に、その子をぶっとばしに行くはずがありませんよね。ましてや、本当にぶっとばしたかったわけでもないと思います。何より、Aくんがそれを望んではいないでしょう。

そうはいっても、増田先生の「ぶっとばす」という言葉に対して「保育士としてふさわしくないのではないか？」と眉をひそめる人もいるかもしれません。それでも、いや、だからこそ増田先生の、Aくんのことを真剣に思う気持ちが伝わってきます。

このやり取りを観ていた人によると、この時のAくんの表情はまるで、辛い過去と決別し、新たな未来へ踏み出したような、そんな笑顔だったそうです。事実、それまでずっと、いじめられていたことばかり話していたAくんが、この日を境にその話をしなくなりました。

Aくんは「この保育園の先生たちは僕の味方だ」と強く感じたのかもしれませんが、「子どもの味方になる」。

それこそが保育士の本分。そんなことを思い起こさせてくれるエピソードです。

# 卒業生の今

明德を卒業した先輩たちは、今、どのように働いているのでしょうか。月歩学歩では、さまざまな現場で活躍する先輩たちからの今をお届けします。今回は、明德土気保育園で働く先輩を紹介します。

## ◎今、どのような職場で働かれていますか。

千葉市緑区にある明德土気保育園で働いて9年目になります。明德土気保育園は、平成18年に千葉市で初めて民営化された園なので、日々立ち止まって何が大事なのかを職員間で話しながら保育を作り上げていっています。園庭の真ん中にある桜の木に見守られながら生活を送っています！ 土気は標高が高いので天気が変わりやすいですが、そこも自然からの学びで面白いですよ！

## ◎仕事のやりがいは何ですか。

ここ数年は年長クラスを受け持つことが多いのですが、就学への接続期を子どもと楽しみながらも、この1年でどのような経験があれば充実した生活になるかを考えています。また実践していくことで保育者の意図していたものと子どもの成長が繋がったり、逆に子どもから学んで気づいたりすることもたくさんあります。

先輩保育士に見習い、木で棚や椅子など作ったり、修理を積極的に行っています。男性の良さを出したいと思いますし...そこに憧れる子どももいるので楽しく作っています！

## ◎今後の夢や展望を教えてください。

実はこの原稿を書いている今も、初めて私が送り出した卒園生（小学5年生6人）がボランティアに来ているのですが、卒園後も地域と繋がりのある保育園であり続けたいと思っています。将来、卒園生が保護者として来てくれたら...とも想像してしまいます。そんなほっとできる保育園だからこそだとは思いますが、いつかは私も、こんな保育園を自分で立ち上げられたらなと思っています。そのためには私も自分磨き、保育士としての専門性も向上させようと、日々努力しています！



**龍 孝幸**  
35回生  
(2005年度卒)

好きな科目は乳児保育、児童文化、保育内容演習など。  
(保育はずっとやりたかったので、どれも楽しかったです。)

夢中になっていたのは、和太鼓サークルとゼミ。

和太鼓は今でも保育に活かしていますよ！

ゼミで、子どもについて、私が保育士としてどうあるべきかについて、考えることをいつもしていました。また、秋田の保育園に行ったりと、保育の幅の広さも実感した時間でした。

## PROFILE



### 教員名

きむ よんじゅ  
金 瑛珠

### 担当科目

保育内容演習・保育  
方法演習・保育原  
論・保育相談支援等

### メッセージ

皆さんと同じように、大学生の時は、幼稚園・保育園・施設で実習をしました。約20年経った今でも、記憶に鮮明に残る出会いや場面があります。皆さんも実習の中でたくさんのお会いや気づきがあるでしょう。それらを大切にしていって下さい！私は今も保育現場に通い続けてます。授業の中で、「昨日行った園で、ね！」と話し出すことも多々あると思います。一緒に、保育のことをたくさん考えていきましょう。

## 教員からのおすすめ

本学図書館には、各教員の専門分野や関心が一目瞭然の「推薦図書コーナー」があります。この連載では、その一端のみならず、教員から皆さんへの「おすすめ！」を紹介していきます。今回は、金先生からの皆さんへのおすすめです。

### 子どもの世界を楽しむ

先日、2年生の実習巡回の際、園のプール開きを見せて頂きました。塩と酒が用意され、お清めの説明があり、その後、先生の言葉を真似て、「みんなが楽しくプール遊びができますように、お願いします！」と子どもたちと先生方がプールに向かって大きな声で言いました。それから、保育者が「みんな、聞こえた？水の神様が返事してくれたの聞こえた？」と話すと、再び静かになり、まさしく、子どもたちはプールの方に耳を傾けていました。その後、一人の子が「は～い、って言ってる！」と言うと、子どもたちは口々に「言ってる～！」「聞こえた！」と言い、とても盛り上がっている場面を見ることができました。

子どもたちには、聞こえたのでしょうか？

それとも、子どもたちは嘘をついたのでしょうか？

野暮なことを考えるのはやめましょう。

今、我が家でお気に入りの絵本、『りんごかもしれない』をご紹介します。（著：ヨシタケシンスケ、ブロンズ新社、2013.）

「あるひ がっこうから かえってくると...  
テーブルの うえに りんごが おいてあった。  
.....でも.....もしかしたら  
これは りんごじゃないのかもしれない。」



という文から始まる話です。一個のりんごが、りんごではなく、○○なのかも...という空想が続いていくお話です。何度読んでも、楽しいお話ですが、これも野暮なことを考えてはいけません！

今月のテーマは「現場から学ぶ」です。“現場から学ぶ”とは、“子どもから”、また、“子どもと共に生活している保育者から”、あるいは“子どもたちと保育者との日常から”、様々なことを学ぶことだと思っています。現場から学びつつ、保育者と共に保育を考えるため、私自身、短大での授業の傍ら研究日には保育現場に通い、今も保育現場で出会う子どもや保育者の姿から、たくさんのお話を学び、気づかされる日々が続いています。



## ! hot news !

new movements of this month in meitoku  
! 今月の明德速報 !

5月31日（土）、明德附属幼稚園の園庭で、学生企画・運営による **1・2年生 合同の運動会**がありました。

一見、学生たちがただ楽しむ会を行ったように思えるかもしれませんが、ここに至るまでに、実行委員の学生たちは、学校全体のことを考えて、たくさん話し合いを重ね、ねらいを持って、企画・運営を行っていました。

以下、このスポーツ大会実行委員の学生が、大会企画中に他の学生に投げかけた文章の一部をご紹介します。

**この運動会を行う“ねらい”についてです。**

この運動会を通して何を得たいのか、この運動会をして何がどうなるのか、どうしたいのか等を決めなければなりません。ねらいがない行事は、ただ楽しむことが目的になってしまい、学ぶということからは少し離れてしまうかもしれないのです。もの足りない部分もあるとは思いますが、僕が考えてきたねらいを挙げたいと思います。

・前提として楽しむことは大切に。（これは運動会に限らず、どの行事においても忘れてほしくない、僕は思っています。）

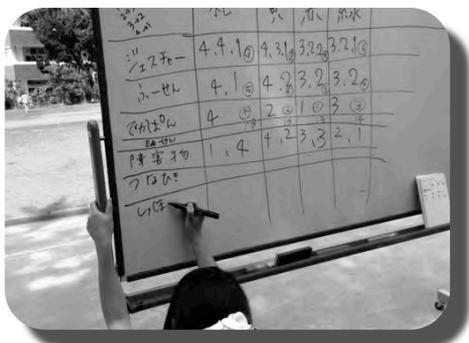
・1、2年生の一つの交流の場としたいです。

前年度よりも、1年生のサークルの参加者は多くなっていると思います。しかし、昼休みの食事会？の参加者はほぼゼロ。ここですよ。何かが足りないから1年生と2年生の間に壁がある。その何かとは、決まった人（2年生の一部）しか、1年生と関わりを持っていないことだと思います。このスポーツ大会を通して、今以上に1年生が2年生と関わりを多くもてるようにしていきたいと思っています。

足りない部分もあると思うので、意見があればどんどんいってください！ 言いづらいかもしれないけれど（笑）。僕だけじゃないけれど、怒ったりなんかはしないので、1年生も意見や質問があれば言ってくれることが、自分たちを高めていくことになると思います。なので、皆さんの発言を楽しみに待っています。大変かもしれませんが、頑張りましょう！

学校行事は、ただの“お遊び”や“お楽しみ会”に留まりません。実行委員の学生が書いているように、楽しむことは基本の「キ」、大前提としてありますが、それだけで終わるものではありません。保育と同様、その“遊び”の中に、たくさんの学びが詰まっています。このような学校行事は、簡単に行えるものではありません。一つのことを創り上げるため、その過程では、さまざまな思いや考えを持つ人が、それぞれの気持ちや考えをぶつけ合います。自分の意見をどのように相手に伝え、相手の考えをどのように受け止め、どのようにまわりのたくさんの人たちを巻き込むか...等、課題がいろいろとあがってきます。この過程こそが、保育現場で（だけではなく、どのような組織で働く上でも）生きるものであり、実践力につながります。それを学生自身もわかっているからこそ、このように活動に対してねらいを持ちながら企画を練っているのでしょう。何より、授業の枠や教員からの評価を越えたところで、学校全体のことを考え、行動しているこのような活動は、まさに明德が目指す主体的な学びが得られる場だと考えています。学生たちのエネルギーと学びに対する貪欲さは、私たち教員をも刺激しています。

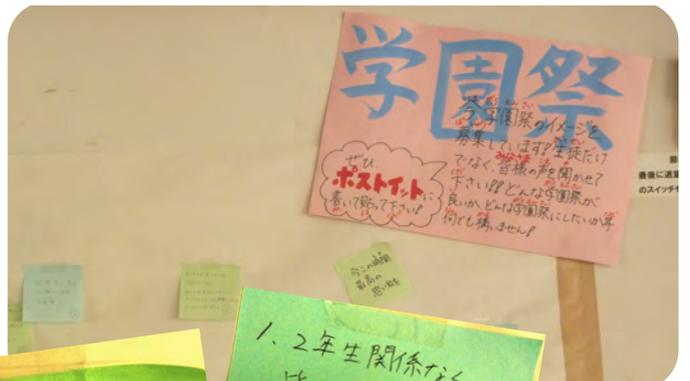
何か、変わるかも。何か、得られるかも。そして、悩むこともあるかもしれないけど、楽しいかも。だから、まだ学校行事に関わったことのない方も、一度足を踏み入れてみませんか？（田中）





## 8月2日（土）10：00～17：00、学園祭を開催します！

先ほどの運動会同様、たくさんのお話し合いを重ねて準備をしています。実行委員だけではなく、来る人みんな（老若男女、地域の方、そしてもちろん学生である自分たち）が楽しめる学園祭にしたい！というねらいを持って、準備を進めています。普段学んでいる授業やサークル活動の内容も活かされます。普段お世話になっている施設の方たちによる物品販売やショーも披露されます。先月号の！hot news！で紹介した利賀村の方たちも駆けつけてきて下さる予定です。食堂でいろいろと掲示されているように、多くの人に学園祭委員としての参加を募集しています。そして、学生の皆さんはもちろん、学生ではない方のお越しもお待ちしています。ぜひいらして下さい。



**学園祭実行委員**

44107  
**会長** 松田 勝也 (2年)

45064  
**副会長** 米立 良知主 (1年)

自分たち楽しむけど、  
 地域の子ともすれのお母さん、  
 お父さん、など天山の人に  
 楽しんでもらえる学園祭にしたい  
 です。自分たちが楽しんで  
 終わる事はコワイです。

1. 2年生関係は  
 皆でつながる  
 学園祭にしようぜ!!

**前進**

来てくれた人だけでなく  
 関係者全員が楽しめる!



# MEITOKU SNAP



1年生は、授業「あそび基礎演習」で「まるいたまご」のパネルシアターを作成、さらにその歌を原型に、グループごとにオリジナルを作り、歌詞も作って発表しました。いきなり“全てオリジナル”はどんな人も難しい、でも型にちょっとひねりを加えることで、世界で一つしかないものがあつという間にできます。

## 明徳の7月

7日 (月)

・教育実習II報告会 (2年生)

11日 (金)

・研修生スクーリング

12日 (土)

・公開授業

14日 (月)

・明徳はうたう (音楽コンサート)

16日 (水)

・外部講師講演会

19日 (土)

・オープンキャンパス

・公開授業

・43回スターボックスお話ライブ

24日 (木)

・保育実践研究会

25日 (金)

・研修生スクーリング

24・25日 (木・金)

・乳児保育ボランティア (1年生)



## 編集後記

様々な「現場」で学ぶ学生の姿をお届けした今月号、いかがだったでしょうか？ 本号の記事を書いている現在、2年生は教育実習というまさに現場での学びを実践しています。今まで学んできたことを振り返りつつ、自らの保育観と向き合う期間となったのではないのでしょうか。いよいよ本格的な実習の始まった1年生にも、この先様々な現場で多くのことを学んできてほしいと思います。なお、各施設や団体のご理解・ご協力あつての「現場での学び」であることは言うまでもありません。関係者の皆様には、深く感謝いたします。今後とも、教員とともに学生たちを時には厳しく、そして温かく見守っていただければ幸いです。(高森)

## ★INFORMATION★

明徳HPの「めいたんブログ」でも、明徳の「今」を日々発信しています。ぜひご覧下さい。

<http://chibameitoku.blog53.fc2.com>

## 発行：千葉明徳短期大学

千葉市中央区南生実町1412

Tel :043-265-1613

Fax:043-265-1627

mail:[tandai@chibameitoku.ac.jp](mailto:tandai@chibameitoku.ac.jp)

URL:<http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html>

## 編集

田中 葵

伊藤 恵里子

高森 智子



読者の皆様へ：『月歩学歩』に対するご意見、ご感想を郵便やメールにてお寄せ下さい。